

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2772403099		
法人名	社会福祉法人 みすず福社会		
事業所名	しらかばグループホーム		
所在地	大阪府枚方市出屋敷西町2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成 26年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 7月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=2772403099-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 6月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人が運営するグループホームであり、特養併設の診療所からの医療連携で連日の看護師の訪問により、健康管理は充実しております。
 広い中庭で、特養と合同の夏祭りなどの行事に、家族様にも参加いただき交流を深めています。
 中庭には畑と花壇があり、四季折々の野菜を収穫し食事に提供しています。
 利用者様と一緒に花をつんで、フロアや机に飾りとても喜んで頂いています。

社会福祉法人が運営するグループホームで、特養が隣接されています。ホームは市街地や住宅地区から離れ、周辺に市の総合スポーツセンターや農地がある静かな環境に立地しています。ホームは天窓付の平屋建てで、ホームのリビングや廊下は、ゆったりと広くて明るく、開放感があり、芝生の中庭に面したリビングには季節の生花や貼り絵、折り紙で作られた造花、切絵細工など、創意と工夫で季節感を演出しています。利用者は、隣接する特養との間にある広い芝生広場へ出て、季節の花や菜園、田畑の緑を眺め外気浴を楽しんでいます。ベテラン介護職員のケアを受け、調理専門の職員が作る美味しい食事を楽しみ、併設する診療所の医師と看護師のサポートを受けながら、利用者はゆったりとした表情で過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気にも脳活性化訓練を取り入れ地域での共同生活を行い、楽しく明るく、ときめきを感じて心の若返りを目指します」と理念を明文化、事務所に掲示することで、常に理念を意識したケアの実践が出来るように心がけている	「家庭的な雰囲気にも脳活性化訓練を取り入れ地域での共同生活を行い、楽しく、明るく、ときめきを感じて心の若返りを目指します」を理念とし、明示しています。定例のユニット会議や各種の委員会、毎日の業務などを通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の方たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の特養と合同の夏祭りや地域交流会の開催で地域との交流を行っている。そしてボランティア団体の来訪、中学生の職場体験の受け入れを行っている。また近隣のコンビニエンスストアによる地域との交流の機会を確保している	ホーム周辺は、住宅地でないため地域住民との交流は図りにくい状況です。しかし、併設する特養と合同で夏祭りやバザーなどを企画し、地域の方に参加してもらえるよう、積極的に働きかけています。外出時や買い物で立ち寄るコンビニエンスストアからも、月に1回出張販売に来てもらいます。民生委員の紹介で、地域の老人会から踊りのボランティアに来てもらったり、中学生の体験学習を受け入れたりする等、地域の方が気軽にホームを訪れてもらい、利用者との交流を図るような関係づくりを目指して努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に対する貢献は現時点では行えていない状況であるが、今後、地域の為に役に立つことはないか検討していきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、月別に活動報告を行い、会議の中での意見を取り入れることでサービスの向上に生かしている	運営推進会議は、2カ月に1回開催しています。ホームの行事予定や報告、利用者の状況、職員の研修状況などを中心に報告し、運営に関する意見を聞いています。会議には家族代表が参加しており、日々の暮らしの中で気づいたことや、改善してほしいこと等を意見や要望として挙がり、サービスの改善へと活かしています。また、会議の報告はすべての家族あてに文書で郵送し、報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営規定の変更等、制度上のことはもとより、疑問な点があれば高齢福祉室に相談し、指導にあたっている。今年度は徘徊高齢者を早期発見するためのネットワークに参加した	市の担当職員とは、普段から事故や利用者情報の報告や相談、情報交換などを行っています。また、徘徊高齢者を早期に発見するためのネットワークに参加し、介護相談員も受け入れています。ケアマネジャーは、市のグループホーム事業所交流会に参加し、交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については積極的に外部研修、または隣接している特養の内部研修に参加し、共有認識を図っている。日常的には利用者本位の生活支援を行っており外出願望のある利用者についてはいつでも中庭や近隣の散歩を實踐している</p>	<p>職員は、法人の身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修会で研讃を重ね、意識の向上に努めながら、身体拘束のないケアに取り組んでいます。利用者は、隣接の特養との間にある広い芝生広場へ自由に出て、季節の花や菜園、田畑の緑を眺め、外気浴を楽しんでいます。玄関扉は内鍵方式で、職員は外出願望のある利用者へ、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はないものの、虐待の事実が見過ごされることのないように日々、不審な点がないか注意を払っている。また高齢者虐待の法的研修や実例研修に参加し職員の共有認識を図っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修によって学習する機会を確保し、今後も順調に研修を受講予定である。また過去に成年後見制度については実例もあり、今後も実践的な中で学びに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約及び解約は、利用者様、家族様に十分に説明し、了承を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。そして運営推進会議や家族会、ケアプラン交付時や電話等、聴取の手段を問わず紙面まとめ、内容を吟味し、運営へと反映させている。	家族の面会は多く、面会時には職員の方から積極的に声をかけ、利用者の近況を伝えています。現在家族には、行事写真や予定を主体にした「グループホーム便り」を送付したり、年に一回、ほとんどの家族が参加する家族会を開催し、話し合いや食事会で家族同士も交流を図っています。家族間でも馴染みの関係ができており、気づいたことや改善してほしいこと等、その都度職員に伝えています。改善すべき内容については、ユニット会議等で検討し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で出された意見や提案事項が反映できるように努めている。また提案に対して結果を報告し、今後の改善や次のスタッフに繋げている	法人内の職員異動等により、現在は厳しい人員体制になっています。新しく任命された管理者と職員は、定例のユニット会議や各種委員会、日常の業務等を通じて業務の改善事項や課題について提案し、話し合いを続け、相互の理解や意思疎通、チームワークの醸成に向けて努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は同法人の一職員として雇用し法人の就業状況について、管理者を通して個々に伝え、非常勤者も意欲と努力により、正職員登用を目指せるように整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市との連携により、出来る限りの研修情報を得、法人内外の研修が受講できる体制を組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームは兵庫県下にもあり、管理者を含め、絶えず交流を深めている 建物形態の違いや人員配慮に違いがあるものの、双方に学ぶべきことが多く、サービスの向上に役立っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様同伴での見学を勧め、サービス利用前には自宅を訪問し、日々の生活の様子や要望を聞き安心して入居が出来るように努めている、また入居直後には特に注意を払い、ホームの生活に馴染めるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直前の見学を勧め、サービス利用に際して不安に思っていることや要望を聞き、利用者側の見方だけでなく、家族側の見方にも、良好な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階では話を十分に傾聴しポイントを整理し、安易にホームへの入居は勧めず、様々な選択肢を提案したうえで問題解決に向けた助言を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と一緒に暮らせない状況にある利用者様にとって、ここが安心して暮らせる場所と感じてもらえるように職員もその一員としての関係を築く心がけをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の都合の良い時に面会して頂き利用者様からの要望があれば、状況を判断した上で家族様への連絡を取り 共に支えていく関係づくりに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も家族様には定期的な面会をお願いし、馴染みの関係が途切れてしまわないように努めている また家族様の許容範囲内で、本人様が良い思いで持つ場所や、関係する人との交流も努めている	職員は、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援を心掛けています。利用者が家族と一緒に外泊したり、外食をしたり、友人や親戚の方が面会に訪れるなど、絆をつなぐ支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流しやすい居間において馴染みの関係が作れるように支援している 建物が2ユニットになっており行き来が自由になっている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	能動的な支援は行っていないものの退去後も家族様から相談等があれば誠実な対応に努めていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしい暮らしが継続できるように本人の生活歴を聞き取り、思いや意向が反映できるように本人の視点に立って関係者と意見交換をしている。センター方式を学びシートを作成しケアプランに生かしている	職員は、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を活かして、利用者の思いを探るなかで、過去の辛い経験から、入浴が嫌いになった利用者が、本当は風呂が大好きだったことが判明し、職員が工夫をしながら粘り強く対応した結果、現在は入浴が好きになった事例があります。その後、利用者の思いや意向について、職員間で情報を共有するための記録や把握について工夫し、認知症が重度な利用者には、「ひもときシート」を使って利用者に共感し、理解を深める努力をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らしを把握するために本人や家族から情報を得、プライバシーに配慮しつつ、在宅サービス利用事業所より情報を収集し入所後の生活支援に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の暮らしにそって本人の生活の中から出来る力とわかる力を把握し職員全体がチームとして状況を共有できるように話し合いをもっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づいて職員は毎日援助項目毎に実施状況をモニタリングしている。計画作成者は結果を把握し定期的なプランの変更以外にも見直しを行っている。ケアプランの見直し時期にはサービス担当者会議を開き家族や職員との意見交換の場を作っている。職員全員が同じ視点に立って支援ができるように月1回のユニット会議でケアプランの変更を報告している。 ケアが困難な利用者には事例検討を行い、ひも解きシートを活用したこともある	介護計画は定期的には6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は毎日、援助項目毎に実施状況をモニタリングしています。また、毎月まとめのモニタリングも行い、ケアマネジャーに報告しています。計画作成担当者は、毎月カンファレンスを開催し、利用者の状況を把握して、介護計画の見直しにつなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人記録、特記事項があれば各ユニットの日記に記載することで情報の共有に努め、日々のケアの実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設形態としては単独ではあるが特養と隣接していることにより、将来的には家族の要望への対応も可能で、特養と合同行事への参加や個の支援に対して、多角的な援助が可能となっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の特養施設との協力体制の他、運営推進会議での地域包括支援センター、民生委員、避難訓練での消防署との交流機会の確保により、安全な暮らしに向けた支援に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接診療所への受診援助と外部専門病院への紹介による受診援助を行っている	大半の利用者が、協力医療機関の内科医をかかりつけ医としており、月2回の往診と、看護師により訪問看護を毎日受けています。他科の医療機関へは、必要に応じてホームの職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、緊急時対応についての体制も整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接診療所との連携、及び支援体制の協定をしており、毎朝・夕には利用者様の健康状態について申し送りをし、指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、面会に行き本人様の様子を伺い、病院関係者との情報交換に努め、受け入れ形態を整えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの「できること、できないこと」を医療関係者との情報交換・スタッフとの話し合いを持ち、チームでの支援ができるように検討を重ねている また医療連携体制がとれることから、重度化や終末期に向けた指針については家族への説明の上、同意を得ている	家族には、入居時に看取りまで法人全体で対応することを伝え、了解を得ています。今後、利用者が重度化した場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図っていきます。状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の備えは特に重要な事で、これも同法人内の緊急時の対応研修や勉強会、実施研修に積極的に参加することで、個々のスキルを高める努力を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣に民家のない場所に立地しているため、当ホーム独自で避難訓練を実施し、隣接する特養との協力体制の下に安全対策、訓練を実施している	消防署の立会指導のもと、年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も実施しています。食料と飲料水も備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに無配慮になりそうな状況があれば、随時指導を行い、またスタッフ会議や勉強会においても、周知徹底を行っている またケアプランに取り入れ実施している	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員は研修で「虐待防止」や「接遇の基本」、「福祉職のマナー」を学び、意識の維持・向上に努めています。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に応じて、コミュニケーションの方法を変えながら、意思の疎通を図り、日常生活の様々な場面において、利用者様の希望の表出が可能となるように働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活パターンを把握し、できる限り、利用者様のペースで過ごして頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を聞き、訪問理美容を定期的に利用している また衣類については更衣の際、好みの服を選んで着用して頂けるように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門の調理担当の者が調理を行っているため、準備や後片付けを手伝ってもらっている	現在は、食事担当として専任職員を配置し、献立、食材の発注、調理を行っています。食材は、季節感のある新鮮なものが毎日業者から届けられています。献立は、家庭的なメニューとともに手作り感あふれる食事を提供しています。介助の必要な利用者には、職員が寄り添い、その方のペースに合わせた食事介助を行っています。	現在は、食事介助の必要な利用者が多くなったことやホームの経済的な理由から、職員は利用者と一緒に同じ物を食べることができない状況です。今後は、季節毎の食材や味付けに関する事等、利用者と共通の話題をつくるためにも、例えば検食を兼ねて、職員が一人ずつでも利用者と同じ食事を食べるよう、検討してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量が人目でわかる記録と利用者様の身体の状況に応じ、塩分、糖分や食事量の調整を心がけ、普通食が摂取しにくい利用者様には、食事形態を工夫し食べていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、実施しているが利用者様の状態に応じて、歯磨き、義歯洗浄やうがい、清拭を行っている 虫歯や義歯の調整など訪問歯科を利用し治療してもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄確認を記録し、排泄パターンの把握に努め、できる限りトイレでの排泄を心がけている	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。声かけや誘導を確実に行うことで、重度の利用者以外はトイレで排泄をしています。入居前にはトイレでの対応が困難だった利用者が、日中は布パンツになるまで改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便確認を毎日行い、必要に応じて、排便促進作用のある飲食物の提供を行っている また散歩等、運動機会の確保も心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴は週3回、時間帯も一定であるが、個浴の設備があり、希望により一人でゆっくり入浴することは可能である また入浴剤の使用や季節風呂の機会を設け、入浴が楽しめるように支援している	利用者は、入浴を好まない利用者も含めて、週に3回入浴剤を使って入浴を楽しんでいます。菖蒲湯やゆず風呂等、季節の行事風呂も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	居室はすべて個室であり、出入り は自由となっている また利用者 様の中には希望がなかり、適切 に表現できない場合もあるため、 様子を見ながら、休息機会の確 保ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬効能表を職員が見える場所に 設置し、必要な時は利用者様 の処方箋と一緒に確認が可能と なっている また配薬も一人一人 の薬箱に分け、複数の職員が関 わることにより服薬が正確に出 来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	おしぼりや、洗濯物を干したり たたんだりを日課として手伝っ て頂き、園芸が出来る利用者様 には園芸活動を行っている 歌 が好きな利用者様には皆で楽 しく歌う等、臨機応変に気分転 換の機会を確保している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日一回、中庭や戸外に職員と一緒に散歩に出る事を日課としており、車椅子対応の利用者様も中庭で季節の花や畑の野菜を収穫してもらっている	広い中庭があり、利用者は1日1回中庭に出て、外気浴をしています。中庭には野菜や季節の花などを育てており、収穫した野菜が食卓にのぼることもあります。また、利用者より希望があれば、少し離れたコンビニエンスストアまで散歩を兼ねて買い物に出かけています。毎日、家族と一緒に散歩に出かける利用者もいます。初詣やさくら・しょうぶ等の季節の花を見に、利用者全員で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニで嗜好品などを買い物をし、利用者様から預かっている小口現金から一緒に支払をします		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様の高齢化もあり、耳が遠く、電話での会話が難しい場合が多く、また不穏になったり、帰宅願望が出たりすることがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には天窓があり採光には配慮している。テーブルや洗面台には季節の花々を活けたり、壁面や廊下に季節の花を折り紙にして飾っている。室温計や加湿器により安定した室温調整、及び適宜館内の換気を行い、利用者様が居心地よく過ごせるように心がけている	ホームは、市街地や住宅地区から離れたところにあり、周辺には市の総合スポーツセンターや農地がある静かな環境になっています。ホームは天窓付の平屋建てで、リビングや廊下はゆったりと広くて、明るく開放感があります。芝生の中庭に面したリビングには、季節の生花や貼り絵、折り紙で作られた造花、切絵細工など、創意と工夫で季節感を演出し、行事写真も貼っています。寛げるソファもあり、利用者の居場所が確保できる、落ち着いた居心地の良い共有空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内部は食堂兼居間という構造であり、寛ぎのスペースが取りづらい状況であるものの、一人もしくは少人数がリラックスして過ごせるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には自宅で長年使っていた家具、そして親、配偶者、子供の写真、信仰にかかせない道具（仏壇や遺影）を持ち込んで頂き、ご本人が心地よく過ごせるように心がけている	各居室の入口には、家族が準備したいろいろなデザインの個性的な暖簾が掛かっています。また、居室には整理ダンスや机、椅子、外出着と帽子の掛かった衣装掛け、ソファなどの家具、冷蔵庫、遺影や位牌、過去帳、家族の写真、飾り置物、人形、テレビ等もあり、個性的な居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、車椅子の利用者様でも支障なく移動が可能となっている またトイレの場所や居室の筆筒に入っている衣類の表示等、日常生活の場で残存機能を活用できるように心がけている		